

414  
A3806

クレ  
氏  
書



聊  
誌  
の  
聊

閣下ノ望ニ後テ日本養蚕ノ追々粗悪ニ至  
 ルヲ日本政府ニ於テ如何様ノ所置アラハ改  
 正セラルヘキヤヲ聊カ建言ス日本ヨリ以太利  
 其外ノ國々へ年々輸出スル蚕卵紙ノ次第ニ  
 悪ナルトハ誰モヨリ知ル所ナリ已前ハ平均  
 ニテ一枚ノ蚕卵紙ニツキ二十枚「キロガラム」ノ繭  
 ヲ得タリシニ当今ハ平均ニテ僅カニ十枚「キロガラム」  
 ヲ得ルノミナリト云フ是レ其粗悪ニ至ルノ確

大  
隈  
正  
十  
一  
年  
四  
月  
侯  
爵  
郵  
寄  
贈



證ナリ

去年パドワ<sup>以大利地名</sup>養蚕改所ニ日本蚕卵紙  
五十枚ヲ出タシ顕微鏡ノ検査ヲ請ヒ人ナリ  
仍テ検査セシニ僅カニ二枚ハ全ク無病ナリシカ  
其餘ハ皆ナ病ノ徴アリテ其内ニ殊ニ甚シキモノ  
モ見コタリトゾ其時日本政府ヨリ養蚕試ルニ  
請フカタクニ以大利ニ送ル蚕卵紙三十枚ヲモ  
此改所ニ出タセリ此蚕卵紙ハ北海道ヨリ出

テタルモノニテ長キ航海中船内ニテノ損シ少ナカラ  
トハ虽モ顕微鏡ニテ検査セシニ皆ナ病ノ徴ニ顯  
レタリ此病ノ徴ハ決ニ船内ニテノ損ニヨリ起シ  
ルニマラサルイ分明ナリト云ヘリ又タ当節日本ヨリ  
素ニ蚕卵ヲ養フニ毎々病ヲ登ヒテ死スルニナリ  
已前ハ斯ルイナカリニ全ク近未始アリシナリ  
トク又タタクノ蚕卵紙ノ内ニ全ク孳卵セザ  
モノアリト云フ

此故に買つ人ノ損耗トナルヲ以テ其價ノ下カレ  
ハ勿論ナリ又タ以テ大利人ハ斯レ損失ヲ厭ヒ  
日本ノ蚕卵ヲ仰カスニテ自國ノ蚕卵ヲ用フハ日  
思ハ程ノ次第ニ至レリ自國ノ蚕卵ヲ用フハ日  
本ノ原種ヲ用フルヨリ却テ得ル所多ナリト云フ  
以テ大利政府ニ於テ斯レ大切ナル事件ヲ察シ  
バトロニ養蚕取所ヲ設ケヨトクトル、ウエルリニテ以テ  
其頭取トナセリ又タ此本局ヨリニテ所々ニ分局ヲ

置キ以テ養蚕ノ業ヲ勸メリ是事ハ附録ノ第  
一章ニ詳ナリ此外民間ニテモ自費ヲ以テ養蚕  
ノ業ヲ勸メルモノ多クアイリテ養蚕ノ一ハ他邦ヲ  
仰クスニテ自國ニテ獨立ニ行ハントスル勢カヒナレリ  
是等先日チユラニヨリ御届ケ致セシ通り民間ニテ  
設ケタル養蚕取調所ヲ一覽セリ是レハ<sup>イニ</sup>キトスサニ  
ニル<sup>イニ</sup>ト云ハル人ノ設ケタルモノニテラニ<sup>イニ</sup>カ<sup>イニ</sup>テト云ハル所ニ  
アリ此所ニ於テ日本ノ蚕卵ヲ養、試<sup>イニ</sup>ニ<sup>イニ</sup>初年

ハ百足ノ内僅カニ十足ナラニハ無病ノモノアラザリ  
ニト云フ併ニオカラ自國ノ種ヲ養ヒ(キエレシグレニ此  
蝶ノ雌雄ヲ一カツ別ニシテ  
卵ヲ生マシム)式ヲ用フル(ハ)病マルモノ僅大  
ニ分ノニナリト云フ斯ル事件ヲ民間ニ追  
々聞傳ヘテハ自國ノ蚕卵ヲノミ用ヒテ終ニ日本  
ノ種ヲ用ヒサルニ成行クニ右ノ如ク追々蚕  
卵ノ惡ニクナルヲ急モ多ク得ニトスルニ因ルナリ日  
本ノ民ハ外國人ニ成ルタケ多ク賣リ成ルタケ多ク

利ヲ得ニトシ蚕卵ノ病ヲモ顧ミス善惡  
是故ニ蚕卵ノ病年々蔓延ニ爾ヲ得ルニ又々  
後年々減少ス  
当節ノ世評ニ以太利ノ蚕ヲ養フ者日本ノ處  
ニ行キ蚕卵ヲ見分ケテ買フニ許サレト  
云ヘリ然ルニ日本ノ蚕卵ノ今ヨリ善クニルハ  
決シテナカルヘシ如何トナレハ是迄日本商人スラ  
目前ノ小利ニ惑ヒテ蚕卵ヲ多ク買集メ其惡

シクナルコ 願ニサリシニ尚又外國商人處カニ立  
入テ將來ノ害ヲモ願ニス多ク買集メントセハ愈  
悪シクナルコ疑ヒナシ

斯レハ茅故日本政府ニ於テ速カニ所置ニ函ノ  
タメニ大切ナル職業ノ廢ラサルマウニ世話ニ如  
何ホトノ細民タリトモ西洋人ニ劣ラサルマウニ是  
カチサレタキコナリ以テ利政府既ニ良法ヲ立テ  
タルコ故ニ此法ニ倣ヒテ見込ヲ陳述スヘシ

此害ヲ防ク仕方ハ先ツ究理ヲ弁トシ蚕ヲ養  
諸事清潔ヲ主トシコクニ注意スルニマリ日本ノ養  
蚕人ニ此事ヲヨク説示シ此事ヲ成届クルハ  
大利益アルコトヲ理會セシムヘキコナリ此ハ日本貧  
民ノヨキ蚕卵ヲ造リテ賣ルノ道ヲ開クヘシ也此レハ  
悪ニキ蚕卵紙ヲ賣ルコトハ出来難カルヘシ此目的ヲ  
以テ此業ヲ勸ムルコトハ都合ヨキ場所ヲ撰ビ尤  
ノ二者ヲ設クヘシ

(イ) 学校一所

(ロ) 養蚕役所

(ハ) 学校ノ一

此学校ニ前以テ教育ヲ受ケタル<sup>若</sup>キ生徒ヲ  
撫シ養蚕ノ法花ニ顕微鏡ヲ以テ病アル蚕卵  
ヲ見分ケ之ヲ除ク一ヲ救フヘシ此生徒ノ内ヨリ  
役員ヲ撰ビ蚕ヲ養フ郡邑ニ至テ養蚕人ヲ  
教ヘ又々養蚕役所ヨリ出ツル規則ヲ

テ之ヲ行ハシムヘシ

右ノ法則ニ依テ十分其人ヲ得タル上ハ誰ニテ右ノ

学校ニ入学スルヲ許スヘシ此学校ニ都テハ下リノ

学校ニ備ヒ器械其外必用ノ道具ヲ集ムヘシ

(附録ノオニ章ニ詳ナリ)

(ロ) 養蚕役所ノ一

(一) 是レハ学校ト併立シ諸分局ヲ統轄シ都テ養  
蚕ノ法則ヲ定メテ分局ニ布告スヘシ

(三) 蚕ヲ養フ者ハ、事業中ニ本局ノ吟味ヲ  
請フヘクバ之ヲ許シ蚕卵ヲ生スル前ニ本局  
ノ頭取「インク」トスフ道具ヲ以テ之ヲ  
スシ此見極ハナタルモノナリ得ル所ノ蚕卵ハ  
十分健康ナルヲ以テ其證トシテ極卵ヲ押シ  
与フヘシ又タ日本ノ國中ニテ用フルモノナラハ「セル」  
ニクレニルハ「ホ」用フヘシ然ル後チ頭微鏡ヲ  
以テ追々検査スルヘモ亦タ政府ノ任ナリ其ツ

タニ九ノ半年ヲ費スヘシ政府ノ極印ハ西洋ノ  
極印ノ如ク細密ニ製シ履印ヲ防クヘシ且ツ蚕  
印紙ノ上ニ検査人並ニ養蚕人ノ姓名ヲ記スヘ  
シ○僅カノ蚕ヲ養フ者其蚕卵紙ヲ本局ニ  
テ取次キ交易ニ出タスヘシ願ハ之ヲ許ス  
ヘシ。斯ル仕方ニシテ追々此本局ニ規則ヲ定  
メテ運上リ細メシムヘシ尤スレバ之ヲ以テ本局  
ノ費用ヲ補フヘシ此仕方ニナセハ政府ノ極印

ハ即チ蚕卵紙ノ齋合ニナルヘシ然レモ今迄ハ  
極印マレモ真ノ齋合ニナラズ甚ク遺憾ノ至  
ナリ又タ貧民トモ此法ニ従ヘハ其益少ナカラサル  
ヲ以テ蚕卵紙ヲ製出スルニ意ヲ用フルルハ  
ナルヘシ而シテ此良法ニ従ハスレテ製出スルモノハ  
其價下落スルカ故ニ追々悪シキモノヲ製出  
スルモノ無キトニ至ルヘシ全体役員サヘ正シケレ  
ハ決シテ偽リハ出未ヌモノナリ若シ偽リヲナス

モノアラハ之ヲ糺シテ相当ニ齊置スルヲ得ヘシ  
③此本局ハ以本利ハドウノ本局其外養蚕取  
調所ト絶エス通信ニ追々起ル病氣ノ一ニ就テ  
相談シ或ハ養蚕ノ新工夫ニ新發明アルハ  
互ニ相教ヘ日本ノ養蚕ヲ外國ニ劣ラサルハ  
スヘシ  
④養蚕ニ関係スル器械等ヲ買入レテキ趣ヲ  
本局ニ願出ワルモノアラハ之ヲ周旋スヘシ



右ノ條々、日本ニ於テ養蠶ノ業ヲ改ニスルノ  
良法ト思考セリ此ノハ日本政府ニ於テ若シ  
可トセハ速ニ施行スラシムヲ希フ但シ此學校  
本局ヲ設クルハ格別難キトニヤラス始メハタ  
ク器械ヲ要セス而シテボトワノ本局ノ頭取トシテ  
ウエルンシノ話ニシテ此度以テ利ハ養蠶取調ヘト  
シテ来レルモノ也九月ニ再ヒ来テ凡ソ十日間モ  
逗留セハ顕微鏡ヲ用フル法其外吟味ノ仕方ヲ

傳授セントスヘリ

閣下若シ許下セハ本局ヲ日

本ニ立ツル取調ハ十分ニ行届クヘシ

閣下ニ於テ斯ル好機會ヲ必ス失ハサルヤウニ行  
ハルニハ疑ヲ容レサル所ナリ而シテ此目的ニ就テ  
尚ホ詳細ノ一ヲ望ミ至ハ、今一層委ニク取調ヘ  
テ呈スヘシ

千八百七十三年六月二十日

維納ニ於テ

イニシール  
グアアグレートベン

任野常氏  
閣下

附録一章

一 パドワ 在ル養蚕改所ノ規則ノ大略

此本局ハ危ノ自的ヲ以テ設クルモノナリ

一 養蚕ノ業ニ就テ良法ヲ取調ル

二 分析究理ヲ基トシテ蚕ヲ養フニ適当ナル

法則ヲ定ム

三 蚕ノ病ノ原因並ニ桑ノ善惡ヲ取調ル

四 無病ノ蚕卵ヲ造リ其良キ種ヲ諸君ニ

分配シ諸方ニテ造ルル蚕卵ニテ蚕ヲ捺査スル  
下

五 新種類ノ蚕ト新器械トヲ試ムル

六 書面並ニ口傳ヲ以テ一般ノ人ニ養蚕ノ法

ヲ教ヘ或ハ本局ニテ調ヘタル成績ヲ風聴ス

ル

附録二章

此学校ニ要スルモノハ教導ノ室一二所ニ是レニ

附屬ノ諸道具

顕微鏡 敬品

蚕ヲ並ノ時ヨリ早ク育ツル器械

病ルル蚕並ニ蝶ノ模造

蚕ヲ試ニ養フタメノ諸道具

以上

